

## 私たちが望む未来の環境 —未来を考えるために過去に学ぶ—

私たちの住む日本という国は、いわゆる先進国といわれる国で新しいものの開発や、もの作りの技術など世界に誇れるものがたくさんあるすばらしい国だと思います。

そんな恵まれた環境ではありますが、私には1つ不満があります。それは私たち高校生がなかなか実際に起こった事実に接近できないところです。私は以前、公害について考える機会があったのですが、公害という言葉自体、保健や社会科の授業で名前を耳にした程度でした。私が調べて学んだのは水俣病についてでしたが、数行の説明しかない教科書の記述からは想像もできないくらいのこと分かりました。

水俣病はチッソという会社が水俣湾に水銀を流したことで起こったものですが、その原因が究明されてから起こって行く対処についてのほうが、複雑で私たちに多くのことを考えさせます。水俣病という未知の病気を解明すべき医師や科学者と呼ばれる人たちの動き、被害を食い止め公害を出した企業を取り締まる立場の行政や国の動き、それを報道する立場の人たちのそれぞれの動きは、まるで何かに操られているのかと思わせるような理不尽なものでした。国全体の動が、必ずしも害を食い止めたり、病気の人たちに有利に働くことばかりでなかったことが水俣病をますます広げてしまったと思います。

私は水俣病が自然環境も破壊し多くの被害をもたらしたことは事実ですが、その地域に住む多くの人たちの社会環境を破壊した事実も同様に重要であったと考えています。家族や地域の暮らし、それまで作り上げていた地域社会がずたずたになり人々が疑心暗鬼に陥り、社会生活に支障をきたしました。その背後には水俣病に対してとった対策であり、同時にとらなかった対策が影響しています。つまり環境悪化に対して企業や国であり医者や科学者がどのような姿勢であったかが、結局はその地域に住む住民の社会環境を悪化させたと考えられるのです。

このように私たちの国でほんの50年前に起こったことでさえ私たちは十分に知りませんでした。私はひょっとしたらその知らされていなかったことの中に未来を考える上で重大なヒントが隠れているのではないかと考えています。というのは、今日の私たちの社会は、高度な科学技術によりますます便利で快適な社会を目指しているように思うからです。誰よりも先をゆくことがステータスであり最重要事項だと思っている社会のような気がしてならないのです。他と比べ、競い合い、競争に勝つことだけが生き残る手段だと思っているように見えるのです。この状況は、水俣で起こった状況に似ているとは思いませんか。水俣は日本が諸外国に追いつき追いついて成長しようとしたために必然的に起こってしまった事件ではないでしょうか。成長のためには、多少の犠牲は仕方ないと考えていた人が

多かったために最悪の事態を招いてしまったのではないかと思うのです。

今日でも、震災の際の原発の影響で苦しんでいる人がいる状況を皆さんはどう考えていますか。多少の苦労や対処の遅れは仕方ないと考えている人も多いのではないのでしょうか。

今日テレビや雑誌などで「環境」についての呼びかけが多いと思います。しかし、水俣で起こったことを考えてみれば、「なぜ環境の状況が悪化しているのか」、「どんな対策を採っているのか」、「その対策はなぜ進まないのか」、「その対策に根拠があるのか」などの説明はあまりされていないように思うのです。状況が何もわからないまま私たちに「こうなったのは私たち人間のせいです!」、「次世代を担う皆さんが改善するべきです!」、「何が出来るかを考えて書き出してください!」、「それでは明るい未来へ向けて実行して頑張ってください!」と数字や特定の地域の惨状だけを示し、根拠のはっきりしない対策を提案させ、実行させているような印象を強く受けます。これは一時的な「環境ブーム」でしかないように見えるのです。

子供が取り組むような活動を子供から大人までがみんな一緒になって行っていることが根本的な改善に繋がるのでしょうか。たとえば日本中の家庭という家庭で節電を行いCO<sub>2</sub>の排出量が10%削減できても温暖化の進行は止まらないと私は思います。たとえ世界中の家庭すべてが削減しても不可能だと思います。「自分にできることを考えてね、地球に優しくしてね」と呼びかけ合い、「自分にできることを行いましょう」だけでは埒があかないからこそ環境問題は難しい問題なのではないのでしょうか。今の状況は先に進んでいるように見えるだけで、私には皆で足踏みをし続けているようにしか思えないのです。

今、私たちの学生という立場は、自然環境の問題や社会的な環境の問題について「なぜそうなっているのか」、「どんな対策を採っているのか、採ろうとしているのか」、「その対策が進まないのはなぜか」、「その対策に根拠はあるのか」などを知る機会も学ぶ機会も十分ではありません。そのために我々学生が意見を交換しあい、それをどこかに提言することもできないのです。もちろん私たちは企業の行う開発には残念ながら自然や社会に害を及ぼす部分もあることも知っていますし、いつまで今のペースで開発を続け成長していくことはできないだろうことも知っています。さらに、先進国に住む我々は国内のことだけでなくその害が他の国に及ぶかもしれないことも考える責任があるはずです。それらのことも含めて私たちは考えていかなければならないのです。それらのことを行わずに未来に何かを望んでも夢物語となってしまうのではないのでしょうか。

私は、緑豊かな自然が大好きです。しかし、そこに住んでいる人の生活が豊かであることも重要な条件だと思います。自然環境と社会環境、その二つは実は密接に関連していると水俣の事件から知ることができました。今日では私たち若者の就職が困難であったり、

たとえ就職してもワーキングプアと呼ばれるように生活が苦しかったり、いじめがあったりする社会です。たまたまそうなったわけではないと思います。原因はどこかにあると思います。

豊かな未来のために自然環境を改善していくことと、豊かな生活のために社会環境を改善していくことは実は同じことではないかと私は思っています。そのために私たち高校生はより深く環境であり社会を見る目を養い、語り合い、意見を発表していかなければならないと思います。私が望む自然も豊かで、そこに住む人誰もが無理せず豊かな生活を送ることができるように。

以上